命どう宝

石川文洋さんのメッセージ

「命どぅ宝」（命こそ宝）。今年８月23日、悪性リンパ腫のため亡くなった報道写真家・石川文洋さん（享年88）が訴え続けてきたメッセージです。

アメリカ史上最大の侵略戦争が展開されたベトナムをはじめ、ラオス、カンボジア、アフガニスタンといった紛争の現場で、戦火の中で断ち切られた命、次の世代へとつながった命を見つめ続けてきました。

故郷・沖縄が殺りくのための基地の島にされていることに憤り、新基地建設に反対する辺野古のたたかいの現場にも足を運び続けてきました。

世界各地で紛争が絶えず、沖縄が新たな戦争拠点にされようとしている今、文洋さんが残したメッセージを受け止めたい。

膨大な作品の中から、ご家族から提供を受けた写真の一部を紹介します。（写真のキャプションは、石川文洋さんによるものを、そのまま再現しています）



石川文洋さん＝2022年４月29日、長野県・上諏訪の自宅にて

故郷・沖縄のたたかい、ベトナムはじめ紛争現場見つめ続け

特集 にちよう

犠牲と怒り

沖縄の怒り　嘉手納基地前　1969年２月４日

1969年11月14日、離陸に失敗したＢ52が墜落、嘉手納村、美里村の民家100軒が爆風で屋根、窓ガラスが壊され、４人が軽傷を負った。1959年６月30日、宮森小学校にジェット戦闘機が墜落。児童17人が死亡、121人が負傷した。1965年６月11日、読谷村でヘリコプターからトレーラーが落ちて当時小学校２年生棚原隆子ちゃんが圧死した。人々はＢ52のベトナム爆撃に反対し、基地の危険を訴えた。





空に叫ぶ

デモ隊とＢ52　嘉手納基地　1969年２月４日

「Ｂ52撤去、原潜寄港阻止」デモをする沖縄の人々を尻目にベトナムへ向かうＢ52

壕の外

傷ついた母親　ビンディン省　1966年

村が攻撃される。農民は壕（ごう）へ逃げ込む。地上では砲弾が炸裂（さくれつ）する。地獄のような時がすぎる。壕の外で逃げおくれた母親が傷ついていた。



経験と未知



老人と若者　辺野古ゲート前　2016年３月４日

おそらく老人は沖縄戦を体験しているだろう。若い機動隊員には日本の戦争は70年前の遠い出来事だ。「戦争では大切な命が奪われるのだよ」「その命を守るために基地があるのでしょう」そんな会話が聞こえるようだ。

爪痕

寂しげな表情　ツーズー病院　1996年

枯葉剤の影響を受けた人は200万人。５万人の身体障害児が生まれていると、ベトナム通信は伝えている。枯葉剤の影響と思われる症状として両腕がない、頭が大きい、口蓋裂、無脳症、二重胎児、４本の指など13の例があげられている。

